

第4期さいたま市外国人市民委員会 第6回委員会 会議録

令和4年1月17日（月）～2月4日（金）まで開催した、「第4期さいたま市外国人市民委員会 第6回委員会」の会議録について、以下のとおりである。

1 第4期さいたま市外国人市民委員会の提言書への意見について

「1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について」

- ・ 保育園、幼稚園の様子と進学のことを加えてほしい。タイトルや要点だけでも英語を併記してほしい。
- ・ (5) PTAの参加への支援について、学校からの情報提供の多言語化のアイデアと同じく、ホームページに簡単な日本語で書いているマニュアルを載せると良い。
- ・ 1(4) サポート役のコディネーターの配置について
日本の教育システムは外国人にとってわかりにくい。例えば、アメリカでは受験システムがないので、どうやって高校を探すか、塾に入るべきか、様々不明なところがある。子供が心理的なサポートが必要な場合として、例えば注意欠如・多動症（ADHD）の可能性がある場合、どのようなサポートがあるか知らない外国人市民が多くいると思う。
- ・ (6) いじめ、差別への対応
異なる人種や価値観、習慣などを認め合あえるよう、国際交流や国際理解の授業を行ってください。
→異なる人種や価値観、習慣などを認め合あえるよう、外国人講師による国際交流や国際理解の授業を行ってください。
- ・ (1) 子育て家庭への支援について、支援は不可欠だと思うが、もっと外国人が日本人社会に溶け込むできる行政、バックアッププランも同時に設置すべきだと思う。日本社会へ溶け込めずいつまでも「支援」だけ行うのではなく、日本社会へ溶け込むというキーワードを明確に描くべきだと思う。
- ・ 日本特有の曖昧な表現は、海外の人々にはっきり伝えきれない場合があるので、日本語の語学力がまだ低く、日本語で全て理解ができない外国の方々に対しては、ポイントとして押さえて頂きたい。
- ・ (4) 学校からの情報提供の多言語化について、莫大な費用とリソースが必要になると思います。翻訳アプリを活用するとのコメントがあるが、さいたま市内の小中学校から一気に進めるのではなく、モデルケースとしていくつかの市立学校で実践し、他の学校の模範となる事例を作ることが大切だと思う。

・育児について、なるべく地域や、地域の外国人の情報を良く知っている人が担当し、現地の外国人の情報を集めて、メールやFacebookなどで情報をいただければ、今後のイベントへの参加などがわかりやすいと思う。外国人向けの育児経験相談会なども行ってほしい。

・日本語の勉強について、こどもにとっては友達との交流は日本語教室より効果があると思う。放課後、外国人の友達を作りたい学生と1時間程度一緒に宿題をやるとか、その他日本での生活に必要なルールや習慣、日本文化について話すことで、生活の不安も減少すると思う。

・子育て家庭への支援として、外国人が積極的に交流できる場所を作るため、定期的にイベントを展開してほしい。また、先生と外国人保護者たちの交流場、外国人と日本人の保護者たちが交流する場を作る必要がある。

・外国から来た人たちとさいたまに住む私たちが一緒に暮らしていくには、「話す・聞く・読む」をしやすい工夫が大切である。多言語の翻訳や通訳があるのが理想的だが、学校の連絡などはGoogle翻訳や翻訳アプリを使って、メールでやり取りしても良いと思う。その際に文書や伝えたい内容をシンプルにする事が大事でそれに気づいていない人が意外と多い。

日本人向けの「わかりやすい日本」の指導や、外国人に対しての「翻訳アプリや翻訳サイト」の使い方を伝授する場が必要で、若い人たちはすでに活用できている人たちもいるが、年齢によってうまく使えなかったり、その存在すら知らない人も多い。「どんな時に」「どのように使う」と生活が良くなるのか実践的に練習し、何回も使って日本語の習得や自立につなげていく機会が重要である。また、外国人のいる職場や学校に時々コーディネーターやカウンセラーを派遣し、その存在を知ってもらう事が、ケアへの第一歩である。コロナ禍でオンライン化が進む中、ネット環境が備えられてない家庭もあるかと思う、例えばスマホは持っているけど、Wi-Fiが使えないなど。できれば子どもが家庭以外の場所でWi-Fiやパソコン・タブレットなどのデバイスを使って学習できる場があるといいと思う。

「2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み」

・(2) ホームページ、SNSについてYouTubeを活用するアイデアにさいたま市のゆるキャラを登場させると親しみやすい動画が作れると思う。

・(3) コンベンション、イベントについて、イベント情報をカレンダーで作成するのはどうか。お花がきれいな時期や場所を書いたり、季節に合わせた様々な情報が入ったカレンダーをホームページに掲載してくれると色々な方がみて、さいたま市の魅力を感じる事が出来ると思う。また、今まであったさいたま市の記念になりそうなイベント、人物などを情報誌の形で紹介するのも良いと思う。

・難しいかもしれないが、実際に観光するためにさいたま市を訪れた外国人に調査をすれば、これからどこに力を入れればいいのかももっとよくわかると思う。

・予算や人員リソースが限られており、コロナ禍の今すぐに開催できないかもしれませんが、それにしても可能な限り早く準備しておくのが良いと思う。

・今さいたま市が持っている資源を活かし、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム 2002、大宮公園、鉄道博物館などの施設を利用し、国際的なイベントを定期的に行う。また、岩槻の人形、日本の漫画文化などをテーマとしたイベントを行い、SNS を利用し、さいたま市の魅力を多くの人に伝える。

・東京オリンピックをきっかけに観光に関する情報ツールが以前より豊かになってきている。さいたま観光国際協会のホームページには観光地の綺麗な写真が載っていたり、そのホームページからさいたま市の観光スポットが綺麗な画像の動画で編集されている YouTube につながることであったり、観光ルートが紹介されている。特に『さいたま歩きが楽しくなる見るガイドブック』ではゆっくりした声でナレーションが流れ、一緒に散歩している気分になり、日本語に慣れていない外国人にも理解しやすくできている気がする。